

畫本西遊全傳

四編九



八遠  
2500  
40-39



遠 2500 40-39

繪本西遊記四編卷之九

池河

斬草之下

行者亦曰く你们若冥府みよのふへ赴まゐりて事ことを悲かなしく思おもひて快たく官府くわんぷへ  
 解と状じやうを献けんて唐僧四衆たうそうししゆを救きうひ出いで然らば我われ閻王えんわう小請せうて你们が  
 命いのちを救きうふ若些せ女にょふても遅滞ちざいの勿ならば你们を帶つ去とる官下くわんげ  
 老婆らうわ定じやう梁りやう兄弟けいだい一いつ奇きに拜まが礼らいとて曰いく唐僧たうそう師し徒とを偷と賊ぞくと思おもひ  
 違ちがへ官府くわんぷ小請せうて都みやこて我輩われらが過あや罪ちがひ明日旦あした赴まゐり官府くわんぷに至  
 解と状じやうを献けんて聖僧四衆せいそうししゆを救きうひ出いで候ん願ねがひ老員らういん外がい我われ們  
 ら命いのちを饒なく人と只ただ管くだ敷して咤あ々あ々小ど行者ぎやう他た們が帰かへ伏ふせるを看み  
 て然しからば我われの飯いへ一刻いちも快たく聖僧せいそう們を救きうよと云いて其その後のちの夜よに  
 くと音ねめ斯て行者ぎやうの暗くらに這家このやを飛と出でて夫このより地ち靈りやう縣けんの符の

繪本西遊記四編之九



堂ふ到りて打探看の當時止中東方登白個々宮士懸明小列  
 座は不交時府刺史も堂上に出ぬ行者思ふやう這處人受け  
 此は猛虫兎の形めて好かしく一旦手段を棄て他輩をも嚇  
 驚馬くんと思ひ勿心ち空中飛上つ本相小飯亦棄て空中  
 一大大たる片脚を堂前小差下く怕氣する色音と登く你们  
 衆官審に聞我の玉帝の差表的めて浪蕩游神る你们徑を求  
 る活佛を摘捉置て牢中に困苦しむ若快く是を放ち出さざんば  
 我這脚を以て衆官人どもを殘を踏殺し城郭房宇を一時踏  
 破つ灰燼と做せたりと呼つる此の這色を聞て刺史を首めとて  
 堂上堂下の衆官們個々身の毛を墜て驚き振ひ一齋小地上に  
 拜伏して曰く上聖日歸つる我過つる活佛聖僧を摘く大

罪を犯しりの急ぎ活佛を扶け出奉ん万望の尊口を動し浴へ  
 支つらんと哀哭して吃々る小ぞ行者亦曰く你们快く聖僧を助  
 出せ若些小女めても遲滞を我再般未つて這城府を盡く踏破る  
 べと云畢て頓て法身と收め亦猛虫兎と聲下牢裡小飛飯了け  
 刺史を首め衆位の官士們這奇怪小胆を冷し色を失ひ嘆  
 息継で在る處小勿心ち寇深兄弟一葉の解状と捧げて廳前小未  
 了今朝父の魂と願ひたる度と目小訴へ万望唐僧師徒を饒  
 浴せん支を願ひたる是を聞て刺史衆官亦更小恐懼を増急ぎ  
 刑房史役を呼唐僧們を獄中より放ち出し四衆を堂上小請  
 再三罪を謝し給ひたり行者八戒廳前小在て你们作日我們を捉  
 へく偷賊の名を負めたり我輩這俵めて四罷るべうと二個と

も同口小黒言つと嘆きなる衆官們万般と是と咤るるを看て三藏三  
 個を諫勸て你輩嘆ぐ事勿し我再び寇家不到一固小員外と  
 吊ひ二固小何故我輩と指て偷賊と做らるや審に是と問れに  
 べしとて遂小廳前を辞し去て寇員外が家小到りしに寇梁兄  
 弟敬馬さし怖し再三再四辱礼し急ぎ四衆を正堂に請ひ只官向  
 の罪を咤らりり行者老婆が無礼小爰小座て在を看て大音お呼  
 んど曰く你老賤婦誰しと設け我輩四個を害せんと欲し我今  
 員外が魂を請まつて他を打殺せらる者と問違老賤婦と戒むべし  
 とて乍ら空中に飛上り消が如く小見む成ぬ老婆と目め寇梁兄  
 弟是を看て驚き怖し戦ひ兢き居りたり行者の一旦空中に到  
 り却て轉回て忽ち冥府お赴き閻王の廳前小到りて今般の

更を備細語つ告て員外が陽壽を延さん更を央と他が魂と  
 請求めりる閻王更の動靜を聞行者が願小任せ員外が魂と  
 與へんを行者權喜員外が魂を請領し閻王小辭し別て去  
 る地靈縣小庇飯つ員外が家に走り入八戒を呼で棺と排せ彼  
 魂を員外が身小推入るは員外が心ち獲生土棺の裡より一  
 て一違小唐僧の座て在を看て驚き拜を做我今偷賊小賜え  
 て死し冥途小赴きこりて孫老爺来つて閻王小我魂を請か  
 りよと覚えしが今忽ち蘇生する事と得たり宜定小再生の思心  
 かりとて身と擲打て感謝しるる行者則ち老婆が謙つて官府  
 小許へ師徒四個を牢中に困苦りめ更を委し語つと只小員  
 外是を聞て大い小驚つと憤つと老婆を官府小許へ頭を列ん

と罵つしつるを老婆口の管口敷きて是を叱責宿亦兄弟も我身の道  
ちを悔み父小敷きて叱りたる二藏も亦一向員外を勧め和め  
あへを員外流し心と定めたり行者頭て官府小告て偷賊が偷  
し金銀衣服財宝と残るる員外が家小送つて返す興がしを  
員外親子大り小惟喜喜夫より亦大りに進宴を按排し師徒四  
衆と管待たり翼日亦報衆を奏し旗幢と備へ前の若くは  
師徒四衆を送つし出さるる府驛の刺史官士們も俱小出承り  
て三藏師徒を拜し諸俱小送るる程小初小増て賑く千里餘り  
送り行て遂小別て飯つたり

猿熟馬馴方脱衣

切成行滿見真如

唐僧四衆へ寇員外小別してころ大路小上つて口官路を急

ぎのふ小西方の佛地果而他処と同うらば草清くふく松  
柏緑深く家々に僧を供養し戸小小斎を施し山下の人皆  
道を修し亦看林間流注の芭絶は誠六根清浄の境界の  
了斯て五六日を過行處小果而雲山の麓小到る行者遙小是  
驚高峯を指差て彼半天中に五色の祥光登りる處則小佛  
祖の聖境なりと云ふは二藏急ぎ馬より下つて峯山を拜せんと  
為めめを行者笑て曰く是より上まで尚許まの行程あり且  
衣服を更め慢々と拜しあへとて四衆個々路傍小休て二廻の洞  
水を尋ね水中に入て沐浴し三藏昆盧帽を戴き錦襪の如衣袈  
を着し徒等們馬を牽行李を擔ひ山頭に向ひて七八里登り行  
處小勿心ち一帶の流水八九里の寛闊あり速近小船も見む唯



悟空前んぞ  
凌雲渡の  
獨橋と  
こころ

寺  
名  
記

寺  
名  
記

根の獨木橋ありと橋の一邊小片の扁を掛て凌雲渡と寫着  
 三藏法師曰く是人の渡べた處小非に我路を過らる成  
 人行者曰く差違く我日試小渡りて見とて勿心ち橋小飛登り  
 飛如く小跑りて渡り向ひの崖小到り手を揚て指招くに三  
 藏手を揺て怕とを傲八戒沙僧も怠慮のせんと後邊へのこと退  
 けける行者没奈何亦向ひの岸より跑りて師父快く我小  
 跟ひて渡りて八戒沙僧も疾渡りて此處佛界なり此橋ぞ小註  
 渡り得べ成佛とぞ我輩此橋より渡りて過て佛と成り八戒你  
 快く我小跟ひ来とと雖も八戒怕とて我実小這橋を渡り得  
 べ但雲小駕りて渡るべし行者曰く雲小駕りて渡りて成佛難く八  
 戒曰く我佛と成む小飯べし行者笑て曰く豈子怠慢の言を吐

べり快く我と俱小来りて渡るべしと西側橋の一邊小在り此  
 つ引きり迫合處小勿心ち下流より一隻の船を撐て来る船中  
 師父快く此船小垂りて渡りてと呼りて三藏是と看て大  
 り小喜び你快く是小垂りて渡りて有とて急ぎ岸に臨て  
 船小下んと為死小怪むべし這船一隻の底無舟なり三藏再般  
 三這破船奈何と能人を渡さんやと返巡りてを行者身後より  
 師父快く船小垂りてと船中に推下せり三藏狼狽撲的水中に落  
 入て阿と一色叫びぬふを船中快く手を指展て船上小扯上り  
 三個の徒弟們も連りて船小飛垂りて船中既小船を撐出  
 る時船の二辺小一個の死骸浮り出て流るる三藏目を見見て驚  
 さぬの一行者笑て曰く師父敬馬さぬ事なり是師父の屍なり今



日肉身を脱し凡胎を棄給へり八戒の僧手を拍て驚驚に寔は  
 然る実小是師父の屍より今日凡胎を脱しめんとて懼喜を  
 を彼船曲も歡喜を傲つ船を廻して不爰時西の岸に到り四  
 衆馬を牽行李を取向ひの岸の上に登りて船隻の船を同し  
 中流に到ると見しが接引佛祖宝幢光王佛と現れ給ひ直小  
 殊雲を縦つて飛去め二藏是を看て急心虚空を禮拜し個々  
 身軽く心快々として山上に登りて行ふ不爰時雷音寺の下に到  
 り着て其光景を眺し高峯直に聳へ樹木多差と排列し  
 瑤草琪花徑傍に彩と添紫芝香き眉を生じ黄葉森林々として  
 上小珊瑚の霞を磨ぎ金瓦整々として下に瑪瑙の磚を双べ珠閣  
 金殿雲外に影を山門の二邊に瑞光朗々と立昇り其光景

耳目小觸る類小有二藏満心勸喜の巻に手の舞足の踏  
 地を忘る立給へ處に快許の比丘比丘尼優婆夷優婆塞門  
 出末つと二藏小告て曰く東土の聖僧快く入て牟尼尊を拜  
 しめと呼ぶと二藏是を聞て憐れ手に錫杖を携へ静々と上  
 前雷音寺山門外に至る當時快二大金剛出迎へて師徒四衆  
 と導引入二の門上の四大金剛の通二の門より亦連々報かき  
 遂に大雄殿下に通達を佛祖如來大い小惟喜あり且八菩薩四  
 大金剛五百阿羅三千揭諦十一大曜十八伽藍を宣聚め兩行に  
 排列し如來旨を傳て唐僧を宣め二藏則ち三個の徒分を  
 從へ徐々として大雄殿前小至り四衆一齋小地上小拜し日関文を  
 出して捧奉りけし如來是を取て披き看終り亦三藏小返り給へ

時三藏跪下拜して曰く弟子玄奘東土大唐皇帝の上旨と奉り  
宝山小登つて真經を求め得て衆生と渝度せん受を思ひ候ふ万  
望の佛祖恩を重給ひ快く經を贈給つて貧僧を歸らめ人當面時  
如未曰く你が東土の南瞻部洲の一大地小く天高く地厚く物  
廣く人稠く不忠不孝不仁の輩許々永世阿鼻地獄小落て生  
々世々浮き昇る事能は偶孔氏する者在て仁義禮智の教を立  
帝王相繼で徒流絞斬の刑を製はと雖も愚昧無智の輩を奈何  
とも為さ能は我今經三藏有通計二十五部一万五千二百四十四  
卷全く你小與へ去むべし是修真の經正善の門痴愚の凡夫を化  
度して其利益限らず三藏是を聞て懽喜小堪は幾般拜しける如未  
當下阿難迦葉と呼めひ你等唐僧們小齋をせせめすと命給

ひらへ阿難們兩個唐僧輩四個を領て樓の下に導引入齋  
を安排して管待ける寔小是仙品めて仙肴仙茶仙果都て凡世の  
物小非は皆是正壽長生換骨脱胎の珍差るる四個是を食する  
毎小心裡心ぞ爽々小く清々つり遂小食し畢つれば如未亦阿難  
如未小命とて經卷を出させ給ふ二尊者命を受けて亦三藏を導引  
宝閣を排いて入りたの霞光瑞氣千重に罩ひ祥雲彩霧万道小遮る  
閣裡小金銀珠玉を鍍めぐる經櫃宝篋君子あり皆悉く眞紅の  
籤を貼着楷書を以て經卷の名を寫し二尊者這經卷を指  
示して因て三藏小對して曰く聖僧東土より来る何の人事と  
我輩に送るや快く取出しめ三藏曰く弟子未路遠小く衝か  
小爰に至る因て曾て人事の準備を致し候は二尊者笑て曰く



白雁尊者  
經卷  
破り棄る

糸本古法言四編之九

好々我輩白手の人の經を傳へて後小管に餓死を乞ふる行者  
 是を聞て忍住魚て呼つて曰く師父我輩快く去て此由を告て  
 如来の手親經と接取べし阿難曰く悟空你爰を何の處と思  
 ひて這樣小噓さ呼びや快く去つて經を領せし八戒沙僧兩個  
 急ぎ行者を請勸遂小一件小經卷と接つて馬小駄せ肩に挑ひ  
 再び宝蓮座の前小到つて如来を拜し幾般大恩を謝し奉つて  
 頓て宝前を辞し退死数重の門を出諸尊諸菩薩を盡く拜  
 禮く比丘比丘尼優婆塞優婆夷們も別と告山を下つて  
 ざる原末彼經卷と納め有く宝閣の上に一尊の燃燈古佛在  
 たるが當下阿難迦乘輩が唐僧小共へたる都て皆無字の  
 經卷を以て暗小打笑ひ東土の衆僧愚昧ゆる

支と識は遙々と遠方の地をまつて苦辛を徒小做支の不便  
 さよとして急ぎ座邊小居在る白雄尊者を呼て快く唐僧  
 們小追及彼無字の經卷と把捨て他們小再般奉つて有字の  
 經卷と取つて命給へを白雄尊者領奉て急ぎ山門  
 へ立出一陣の狂風小駕り一時の間小唐僧小趕上座中より  
 て手と伸り馬に駄せつる經卷と輕々と扯把經包と扯破り地上  
 小拋捨風と轉ると雷音寺に飛入空閣小立歸と燃燈佛小  
 這支告て唐僧の末と待居る三藏師徒の是と見て大い小驚  
 き行者鉄棒と把て空中に飛上つてなむとも經卷已小地小落け  
 じを日雲と下つて八戒沙僧と俱小經卷と捨ひ集めたる三藏の  
 泪と流して極樂世界小も這樣なる邪心なる者左よとて衛々

徒等們と卷教と查勘給ふ小是息慮這經卷一字半點の  
 跡もろく皆白紙の經卷さうさむの四衆大の小驚さ再般打披  
 き打排き點一卯看み那固もろくも皆無字の白本さう三藏  
 嘆息して曰く這經卷都て皆無字白本中不要の物さう斯る物  
 を遙々と東土小持飯て何ゆせん唯這我身の没福さうと口管憂  
 ひ歎き給へ行者曰く師父憂ひぬ事さうと我這子細を知つ彼  
 阿難迦葉の隆秀子們我輩が以津の贈物な故小這白本と  
 與へさうさう我輩快く還りて如來に這由をさうと人事と食ら  
 の罪を犯さへ八戒汝僧嚙て曰く長兄の言さう我輩速く往て  
 如來小止口奉るべしと四衆乍ち小身と轉り亦山上へ跑登り喘呼  
 呼的山門小跑り入らば衆聖者四大金剛們も疾已小是と悟

つと唐僧輩經と換小来さうとて路を聞て避過ける行者の輩忿  
 氣然ろとと大雄殿前小到り呼つて曰く如來聽給へ我輩師  
 徒千万の苦辛と凌ぎ遙々と東土さう来りて如來を拜し經  
 と求る小阿難迦葉我們が人事無小因て故意無字の白本と  
 與へさう我輩是を取歸りて何の要めせん如來快く兩個の  
 和尚が罪を犯し佛に笑て曰く你們嚙事さうと阿難亦  
 が人事を要んと云し事も我能是を知り但是此經輕く傳  
 ふべうは亦空く求むべうは向年衆比丘等山を下つて舎衛  
 國趙長者が家小行て此經を一遍誦誦し他の家を保ち生喜言ハ  
 安全七者の海度さうと雖も他們黄金白銀米粒三千二升と  
 討め得て還りて我尚感さ賣賤とは是を以て他們が後代

の児孫管に没錢使用かへし你輩白手ふて求る故白本の  
と與へしらん然と雖も白本の無字の真經却て尊と雖も但  
が東土の衆生性愚迷ふを悟る事能は然が今更めて有字の  
真經と與へしとて亦阿難迦葉と呼此旨を命し給へし尊音  
亦二藏四衆を領て珍樓宝閣ふ到りて因て亦人事と要る事初  
の如し這時三藏沙僧ふ命し紫金鉢盂を取出させ自親双手  
ふ捧て曰く弟子実ふ貧寒ふし且遠路を来りて曾て人事の准  
備候は這鉢盂の唐王より親手賜りし處の盂ありて弟子  
路上是を以て齋と化し今是を奉上りて此女寸志を表せん  
と欲は万望の二尊者是と收めめひく有字の經卷と我輩に與  
へ給へし二尊者是と看て三藏の經を求る如の切うと思ひ是

無上功德の和尚と成へしと個々暗ふ感づつ許すの經卷を  
取出しと與へし二藏の行者輩と件一ふ取揚り卷を披  
し看ふ正し是有字の經卷ふて有るは四衆皆白大し懽喜  
盡く斎整て馬ふ駄せ其餘の担と做て八戒ふ挑せ汝僧行  
李と擔ひ行者馬と牽三藏の錫杖を取如來の宝前ふ到りて  
此の如來則ち降竜伏虎の二大羅漢ふ命し雲磬と打响せ諸天  
諸洞の佛菩薩大小の尊者輩を呼めを須臾天樂空聞ふ响  
き祥光四方ふ散乱し遍く諸天の諸菩薩三千諸佛揭諦金剛  
五百羅漢盡く集りて来りて個々如來ふ禮拜し大雄殿上ふ排列  
如來諸佛諸菩薩ふ對ひ東土の經卷を送る由と語り給ひ然て  
後亦阿難迦葉ふ對ひ東土の傳る經卷の數を問給へし二尊者



謹敬を遂一は是と報と曰く

涅槃經四百卷

虛空藏經二十卷

恩意經大集四十卷

寶藏經二十卷

禮真如經三十卷

大光明經五十卷

維摩經三十卷

金剛經一卷

佛本行經一百二十六卷

菩薩戒經六十卷

菩薩經三百六十卷

首楞嚴經三十卷

決定經四十卷

華嚴經八十一卷

大般若經六百卷

未曾有經五百三十卷

三論別經四十二卷

正法論經二十卷

五龍經二十卷

大集經三十卷

摩竭經一百四十卷

瑜伽經三十卷

西天論經三十卷

佛國雜經二千六百二十八卷

大智度經九十卷

本閣經五十六卷

大孔雀經十四卷

貝舍論經十卷

法華經十卷

寶常經二百七十卷

僧祇經二百二十卷

起信論經五十卷

寶威經二百四十卷

正律文經十卷

維識論經十卷

都て是三十五部通計五千四十八卷と與へる昔と報るを如  
未則三藏を省て曰く遠經切徳無量なり九天下四大部洲の天  
文地理人物鳥獸草木器用人事とも遠經ふ載ざるなり  
你們南



摩訶部洲小刹一切衆生示慢小是輕んむべし沐浴  
齋戒せむんが容易巻を聞べうむと示し給ひたるを三藏謹  
で領掌し頭を叩て佛恩を謝し幾回如來を禮拜し徒等  
を從へ急ぎ山門を立出ぬ當下觀世音菩薩殿上小上前  
出て佛祖小向ひ合掌し曰く弟子當年金吉と領し東土  
小到りて經を取人と尋ね今己小功成り年と計る小都て是  
一十四年日數五千四十日唯是八日少くして藏教小合は今聖  
僧と東小歸し東土に經を傳へ畢つ亦四個と西小向ひて飯ら  
り往來八日の間小有て一藏の數小合し候はん如來是と聞か  
ひ時小歡喜給ひたる小ぞ菩薩急ぎ八大金剛と宣て你们快く  
唐僧小赶上唯八日の内小有て東土小送つ亦這處ゆで轉回

領末ろくと命を給ひたる金剛是と兼諾て則時小唐僧小赶上  
菩薩の命を備細語つ八日の間小有て亦這處ゆで還るべし由  
を告聖僧我と一齋小末了給へとて雲を縱て飛坐る行者登車  
三個の原末飛行自右より白馬も同く胎るるさむば個々雲小  
飛駕なる是と看て三藏這怎麼と踟躇ぬと行者師父の手を  
取て雲の上小扯上る此時三藏既ふ九胎と離と進退前と同ド  
かむに輕々と雲小飛駕るるに満心歡喜小堪は是より個々金剛  
小從り東小向ひて空中と飛去る

池清

池清

